

教育評価の不安と期待

Expectation and Anxious for Evaluations Concerning Education Activities

仙石 正和^{*1}

Masakazu SENGOKU

社会から、高等教育機関の教育の質を高めること、その質の保証をすることが要望されている。2004年から、認証評価制度が施行され、全ての大学が7年毎に機関別評価を受審してその結果を公表することが法律で義務付けられている。このようになった理由は、社会の変化、特に大学の大衆化に伴い、大学へ入学する学生が多様化したことなどが主なものと考えられている。さらに工学系の技術者教育に関しては、工学部卒業生が身につけているスキルと産業界のニーズとの不整合が問題となり、大学の教育の評価に関して考え方の変更をせざるを得なくなった。すなわち、事前規制から事後審査への重心の移行である。以前は、大学は設置基準に合致しているかどうかを審査されて設立され、どのような学生が卒業したかなど卒業生の質はあまり重要視されなかった。大学が大衆化する前はこれで良かったが、大衆化されてくると卒業生の質の保証が表面化してきた。平たく言うと、教員によって何が教えられているか（どのような科目が何単位受講出来るようになっていくか）という観点からではなく、学生によって何が学習されているか（身に付いているか）という観点から大学が評価されるようになったということである。このような状況の中で、教育評価が行われつつある。このようなとき、教育の評価について感じていることを何でも良いから寄稿してくださいとの依頼があった。教員個人としても評価を受ける側から、浅学を顧みず個人的な独断と偏見で、教育の評価の現状のやり方での不安、将来への期待など書かせて頂くことにした。

1. 教育の質の評価について感じていること

教育の質は、「目的」、「教育研究組織」、「教員と教育支援者」、「学生の受け入れ」、「教育の内容および方法」、「教育の成果」、「学生の支援」、「施設・設備」、「教育の質の向上と改善のためのシステム」、「財務」、「管理運営」などの総体からなっており、全体をどのように評価し質を保証するかが問題であることは多くの人々が認めている。物的及び人的資源が有限であるな

かで、どのようにやりくりするか個々の大学が模索しているところである。「目的」から「管理運営」までの項目は、評価基準と称されて、認証評価機関として認められた大学基準協会や大学評価・学位授与機構が示す基準も概ね同じである。また、日本技術者教育認定機構（JABEE）は、私たちには最も関わりの深い専門分野別評価機関で、ワシントンアコードにも加盟して国際的にも認められ活動している。JABEEのこの専門分野別評価の際の基準も概ね同じである。機関別評価およびJABEEの両方を受審する側からすると、基準が同じことは準備する際ありがたいことである。専門分野別評価は、自己点検書も詳細かつ内容も深くなっている。機関別評価およびJABEEで共通部分などは自己点検書で同じ形式にして貰うとさらにありがたい。

特に最近、教育の水準が産業界から問題にされている。水準を判定する際注目する項目は概ね以下のものである。

- (1) 教育内容
- (2) 教育方法
- (3) 教育の成果
- (4) 進路、就職など
- (5) 教育の実施体制（教員、FD、研究体制など）
- (6) その他

その他には、水準を保ち向上させる「改善のシステム」もこの水準を判定する際重要である。このような項目に、個々の教職員がどのように関わり貢献しているか、また組織としてどのように取り組んでいるかという評価観点が重要な気がしている。

さらに審査を受ける側から注意すべき点は、機関別評価およびJABEEの基準の中で、教育組織または、教員組織などの項目の中に、“教員は教育上の指導能力の評価、教員の教育に関する貢献の評価、教育研究の評価が行われているか”など、との評価観点がある。このことから、個々の教員の教育評価（研究評価と同様に）を避けられない状況である。但し、具体的な評価方法、評価結果の使い方などは各大学の見識に任されているということであろう。大学によっては、この評価結果を給与や研究費などに反映したりするところもあると聞いている。

平成19年5月7日受付

*1 新潟大学工学部

2. 教育の評価において不安と期待

(1) 現状での評価で不安な点など.

- 1) 評価を続ける内に各大学は特徴のない同じような大学になっていきそうである. 認証評価, JABEEなど, 個々の大学の特色を現在も評価しているが, もっと重要視して評価してもらいたいものである.
- 2) 教育の方法に正解はないように思う. 教員が100人集まれば100人の教育論(説)があり, どれも間違っていない. 学生も教員も人間であり, ISOのような製品の品質改善のようにはいかない. 現場に任せることが大切ではないか.
- 3) 評価が始まると, 評価に合格すること, 評価で良い成績を上げることが目的になり, 本来の教育の質を向上させるとの目的を忘れがちである. 評価の成績を上げるために形式を整えることにのみ注意が集中して, 重要な教育内容を制限したり, 現場の教育への時間が減少したりすることは本末転倒である.
- 4) 多くのJABEE受審経験者から, 数人の教員に負担がかかり, JABEEの精神が全員に浸透していないとの声を聞く. 事務の支援体制も整える必要がある.
- 5) これらの評価で本当に教育は改善されているのか. 教育改善の成果は短時間では出ない. 検証が必要であろう.
- 6) 教員個人の教育評価は, 担当のコマ数, 卒業研究の学生数など量の評価になりがちである. 本来, 教育の質保証への貢献, つまり1.の評価基準への貢献を評価すべきではないか. 教員は教室での講義だけが仕事ではないと思う.
- 7) 教育評価も研究評価と同様に, 分野によって異なる. 講義より実験・実習を特に重視する分野など, 一律には評価出来ない. ただし, 総合大学でよくありがちであるが, 分野の違いを理由に, 「実質的に何もしない」ということは良くなく, 分野ごとに評価方法を設定すべきである

う. ただし, 十分検討し, 評価方法の継続的改善も行う必要がある.

8) その他.

(2) 将来への期待など.

- 1) 世界的な教育改革の流れの中で, 認証評価制度, 専門分野別評価機関JABEEなどが, 我が国の高等教育を方向付ける重要な役割を果たすことが期待される.
- 2) 教育改善のシステムを試行錯誤で行うことにより, 平均値的には教育の改善, が行われそうなことに期待したい.
- 3) 教育評価を行うことにより, 従来研究成果のみをあげることに興味を持っていた教員も意識改革しているようだ. 教育評価が研究成果の向上にも有益であってほしい. 教育と研究は両方ともに大学の使命である. 研究を意識しない教育, また, 教育を意識しない研究, いずれも学生にとって魅力がないと思う.
- 4) JABEEの成果が社会に認められ, 技術者の社会的地位を上昇させて貰いたい. 理工系離れのストップへの効果も期待したい. このことが, 最近の多くの理工系大学のJABEEへの最も大きな期待かもしれない.
- 5) その他

3. おわりに

教育の評価は教育の質を向上させる手段で目的ではない. 公正な評価を求め続けることが必要で, 学生も教職員も達成感が共有出来ない, 結果的にマイナス効果を生みやすい. 学生にとって大学の4年間(大学院まで入れると6~9年)は, 長期的なキャリア形成の中での一部である. 大学は, 卒業後数年の短期的な成果のみを求めることはせずに, 学生の長い人生のなかでの助けになるような組織でありたい.

本文のなかで, 私自身の誤解に基づく記述があるかもしれない. くれぐれご容赦をお願いする次第です.